

おー!! 柏陽

北海道北見柏陽高等学校同窓会
かしわ会東京支部 2015 年度会報
発行日 2015 年 8 月 31 日
発行所 北海道北見柏陽高等学校同窓会 東京支部
四十物古大
山梨市北 2184-4

同窓会新会長を迎えて和やかに

二〇一四年度総会・懇親会盛大に開かれる

2014年10月19日
レストラン
ベニーベニー

2014年度総会・懇親会は、本部の山本忠司前会長、舛川誠新会長ならびに秋山裕晴事務局長の出席のもと校歌斉唱で開会しました。

四十物支部長、舛川会長の挨拶の後、事業・会計報告があり、満場一致で承認されました。

また、次年度の改選を待たずに新しく役員会に加わった5名のメンバーも紹介され、承認されました。

懇親会は山本前会長の乾杯の音頭で始まり、途中、スクリーンに北見の駅舎や柏陽高校、端野のジャガイモ畑やカレーライスマラソン、訓子府の街なみや桜の展望台、置戸の商店街や夏まつりなど、懐かしいふるさと

の現在の様子が映し出されました。

アトラクションは、いづみ朱子さんと古賀恵美子さんの歌の共演。

お楽しみ抽選会では、目玉景品の「北の海鮮セット」と会場からの提供品「ベア」のランチ招待券は19期の2人が獲得。

お開きは第三応援歌と二本締め。今回の再会を約束して散会しました。



左より秋山事務局長、舛川会長、四十物支部長

かしわ会が初優勝!!

北見市ふるさと会親睦ボウリング大会

2015年2月21日(土)、田町ハイレインを会場にして、ふるさと北見会主催の「北見市ふるさと会親睦ボウリング大会」が開かれました。

我がかしわ会からは四十物支部長はじめ6名が参加し、各チーム成績上位3名の合計スコアで競い合った団体の部でみごと優勝しました。幸崎元支部長時代から数えて8年目の栄冠です。

個人の部でも、石澤勝信(12期)さんがハイゲームとハイシリーズ



の2冠に輝き、「柏陽男児」の存在をアピールしました。石澤さんは最近ボウリング教室に通い始めたそうです。

本大会は毎年2月の開催です。次回、連覇はなるでしょうか?

活動報告

・総会

・役員会

会計報告

・収入の部

98万4018円

・支出の部

74万3562円

・次期繰越金

24万0456円

役員

支部長

四十物治夫(15期)

副支部長

保木元幸雄(19期)

小竹

利和(20期)

若作

敏明(20期)

古賀恵美子(21期)

小山

茂(16期)

高橋

洋司(14期)

杉本

克郎(15期)

国武

悦子(16期)

副幹事長

椎名孝典(18期)

高島

正志(18期)

懇親会実行委員

手塚 勝己(18期)

15期 曾我部正幸

16期 中澤 透

16期 小森 彬文

谷田 修司

報告および承認事項

かしわ会東京支部の皆さん お元気ですか？

「2015年度かしわ会東京支部総会・懇親会」の開催にあたり、学校長、同窓会長からメッセージが寄せられました。四十物支部長の挨拶と合わせてここに紹介します。

新たな発展に向けて

かしわ会東京支部 支部長 四十物裕夫

6月22日、15期の約40名が母校の柏陽高校を訪ね、塩見裕史校長から教室と体育館での授業参観ならびに屋上から敷地内の全容とグラウンドや野球場などの各部活施設について詳しい説明を受けました。

現校舎は約1/4世紀が経つそうですが、大切に使われているのでしよう。綺麗に整備されており、我々のピンクの校舎時代の面影は有りませんでした。

しかしながら、北見柏陽高校の歴史と伝統が引継がれていることを参加者全員が実感でき、大変嬉しい気持ちになったことを付け加えておきます。

北見柏陽高校は、近い将来 創立1世紀の節目を迎えます。かしわ会東京支部としても、各界・各層を超えた「絆」を深めるとともに、「陰になり日向になつて」母校の発展の一助になり、おおいに盛り立てて行きたいものです。

今年は、10月の総会・懇親会に柏陽高校卒業生で初めて母校の校長を務める塩見校長先生(24期)の出席を予定しており、ご自身が学ばれた40数年前と現在の母校の様子をお話ししていただけるのではないかと思っております。

年に一度の同窓生の交流の場です。盛況が期待できますので、皆さんのご出席をどうぞよろしくお願い致します。

かしわ会東京支部総会に寄せて

北海道北見柏陽高等学校同窓会 会長 舛川 誠

今年の夏は記録的な猛暑となっておりましたが、東京支部の皆様には如何お過ごしでしたでしょうか。昨年の東京支部総会・懇親会では新米会長である私を温かくお迎え下さり、楽しい時間を過ごさせていただきました。平素より、一方ならぬご高配を賜っておりますこと併せて、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

北見に住む私たちにとり日頃目にする当たり前の街の風景やその変化、少し足を延ばせばいつでも見ることが出来る柏陽高校が、遠く故郷を離れ首都圏で活躍の皆様にとっては、思い出とともに目に浮かぶ懐かしい風景であったり、寂しさを感じさせるものであったり、また、それぞれの青春時代のストーリーとして郷愁とともに思い出す「母校の姿」ということを、皆様のお話を伺いながらしみじみと感じさせていただき、同時にその故郷を預かる者としての自覚と責任も新たにさせていたいただきました。

9月4日には平成27年度のかしわ会総会・懇親会を迎えます。新しい役員体制のもとで初めての開催となりますことから、現在、当番幹事の「ご協力」を得ながら準備を進めているところでございます。その総会に於きまして、同窓会の名称変更を提案させていただきます。家政・高女の流れを汲む北海道北見柏陽高等学校同窓会の名称を、「かしわ会」と称するものとし、その名称の下に、世代を超えて学舎とともに青春時代を過ごした「絆」を大切に、同窓生としての結びつきを発展的に維持していく下支え役を、しっかりと努めて参りたいと思っております。

かしわ会東京支部の今後益々の隆盛並びに会員の皆様の「ご健勝」を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

もへこんで落ち込んで まつりごと

北海道北見柏陽高等学校校長 塩見裕史

「競技場でプレーする諸君の誰もが、必ず息を味わうだろう。今まで打ちのめされたことがない選手など、かつて存在したことはない。ただし、一流選手はあらゆる努力を払い速やかに立ち上がろうと努める。並の選手は少しばかり遅い。」(名将ダレル・ロイヤル)

そうです。高校時代も「へこんで落ち込むこと」が多いのです。

でも、「へこんで落ち込む」には大事なものが入っている。落ち込んだ後は浮上するもの」と生徒に伝え、職員も励まして楽しい学校づくりに努めています。

今年の柏陽祭も、国道での行灯行進あり、ステージでの躍動するダンスあり、夜光を彩る大輪の花火あり、そして、閉幕式で感謝の涙がありました。最後の学校祭で、クラス内のもめ事や文句に堪え、やり遂げた3年生リーダーの優勝インタビューは感動的でした。「みんな、文句を言いながらもこんな俺に付いてきてくれて、心一つに力を合わせてくれて、ありがとう」と体育館一杯の涙の叫び声が耳に残っています。

柏陽祭は66回を迎えて、第1回開催当時の3年生は現在84歳。行灯は54回目を迎え、初回時の1年生は70歳でしょうか。今年は「特別な祭りをあなた達にあげる。あったかいんだから」とのテーマで、心温まる柏陽祭でした。

諸先輩からいただいた様々な伝統を力にして、今年も柏陽生は活躍しています。高体連では14種目中、13種目が優勝・準優勝で全道大会に、空手・軟式野球・体操・水泳が全国に駒を進めました。

これからも応援ください。

なつかしい私の柏陽高校時代

楽しかったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、悔しかったこと。青春真っただ中だった高校時代でした。誰もが輝いていたあのときの、とっておきの思い出を寄せていただきました。

「おー!! 柏陽」 高校時代の思い出

入学直後の顔合わせ全校集会で、先輩達の野太い「ヨオーッ」 という喝に驚いて始まる高校生活の時間の濃さは今の何倍だろうか。部活はせず、勉強もいり加減だった私でもそう思う。生涯の友も得た。

一番の思い出は所属したクラスそれぞれで2年次と3年次に総じて最優秀賞を得た文化祭での行燈作りだ。制作の時期は行燈作りのために通学していたようなものだ。中でも2年次の行燈は思い出深い。

ボーっとしていたら、演劇の企画中心メンバーからクラスが用意する少し暗めの社会派的な役に充てられそうになった。だが、情でもないし自信もない。断るために「行燈を一所懸命やるから」と断棄してもらった。

最初は行燈のイメージが湧いてこない。幸いにも級友達との話し合いを繰り返すうちに、次第に骨格が固まっていた。夜の行進だから、大きな張りぼてではなく、内側から発する灯りで外側のスクリーンに絵を映すようにしたい。何枚かの絵を回して順に見えるようにもしたい。ちょうど開道百年の年だった。六角形の縦サイロに六枚の丸いわばステンドグラスのようなものを手分けして描いた。札幌の時計台などだ。

それをリヤカーの荷台に寝そべる格好で入った用員が作品台の下まで伸ばした軸を手で回し続ける仕組みにした。中心の灯りの電線にはバイク通学の級友が遠くから運んだトラクターの大型バッテリーを使った。木材調達のためにリヤカーで材木店にも何度も通った。行進の日が迫った土・日には普段は目立たない級友達も総出で作業に関わった。

私自身、直前何日間は徹夜に近かったように記憶する。

ほぼ完成して灯りにスイッチを入れたときの感動は忘れられない。不運ながら最優秀賞もそのとき既に確信した。それ以上に、普段は漠然と机を並べている級友達との友情が深まったことに喜びを感じた。

さて、今も後輩達は文化祭に熱中しているだろうか?

角田 大誠(19期)

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

野球に明け暮れた 私の柏陽高校時代

昭和43年秋、野球部は部員が少なくチームが成り立つかどうかの瀬戸際であった。バスケット部から選手を引き抜くなどしてなんとか新人戦を迎える。選手引き抜きについては井戸先生に大目玉をくらったが、チームは地区大会を制して全道大会に進出。自分にとっては夢のような出来事だった。

出場校は北海、苫東、札幌、函館有斗、旭商など強豪ばかりだったが、有名校は杖を並べて討ち死に。柏陽は間隙を抜いて勝ち上がり準決勝で旭商を破り決勝進出。今まで夢にも見なかった甲子園がそこにあると色めきたったがそうは問屋がよろさず、銅路一校に5-1で惜敗。

翌44年の春の大会では、接戦を勝ち抜き決勝で遠征に1-0で勝利し再び全道大会へ。昨秋の準優勝校として追われる立場での大会となる。初戦札幌光星を5-

4で破ると波に乗り準決勝で小樽北照を退け秋に続いて決勝進出。決勝は富良野と対戦打線爆発で11-0の大差で初優勝。その日の夕方、かつて



最強のチームメイトたちと

の小中学校の先生が囃しつけてくれたり中学校の同級生からケーキの差し入れがあったりと嬉しい1日となった。見てくれている人は見てくれているんだと感激した。

翌日、北見に凱旋。市役所前での優勝報告会やオープンカーでのパレードと恥ずかしいやら照れくさいやらで大汗をかいたのを記憶している。

44年夏、優勝校として滝川での北大会に出場。準決勝へと勝ち上がり旭東と対戦。9回まで1-0とリードするも追いつかれて延長で1点リードを許す。その裏、2死2塁で私が左前ヒット、2走ホームをつくもタッチアウトの判定。このアウトはキャッチャーが落球、誤審ではないかと球場が騒然となったが、判定は覆がらず甲子園の夢はついえ去り皆涙にくれた。この無念は翌年後輩たちが晴らしてくれた。

卒業して40余年になるが、今でもグラウンドで戦った一つひとつの場面を鮮明に思い出すことができる。一生忘れられない青春の思い出を残してくれた我が柏陽高校と良き仲間たちに感謝するばかりである。

小竹 利和(20期)

各期の近況

16期生『川越のまちを散策』

雲一つない青空のもと、企画担当の久原君の引率で、
本川越駅→中院→仙波東照宮→喜多院→五百羅漢→昼食
→本丸御殿→市立博物館→時の鐘→菓子屋横丁→まつり
会館→花の舞（懇親会）のコースを散策した。

喜多院では、
江戸城内から移
築された家光誕
生の期や春日局
化粧の間に興味
津津、表情豊かな
五百羅漢の中



時の鐘を背景に「おー!!ポーズ」

には私に似た羅漢様がきつというはず、と探し続けてか
なりの時間オーバー。これが以後の駆け足散策の要因と
なる。

市立博物館で川越の歴史や伝統産業、蔵造りの構造な
どについて学習した後、いよいよお待ちかねの蔵の町エ
リアへ。

菓子屋横丁で大学
芋をほお張り、川越
のシンボル時の鐘で
記念撮影。

当日は途中からの
合流を含めて17名
が参加。約6時間

(12000歩)を踏破
した16期生はまだ
まだ元気です(kumi)

編集後記

今年の夏は100年に一度いわれる暑さでした。
みなさま、お変わりなくお過ごしでしょうか。
「おー!!柏陽2015」をお届けします。
お忙しい中、原稿をお寄せいただきましてみなさ
ま、ありがとうございます。
懇会・懇親会でお会いしましょう。
國武記

18期生『山陰・山陽の旅』

12月2日、女満別から羽田着。出雲空港が、吹雪と強風のため飛ばない
とか？出雲の手前から厚い雲。ガタガタと大きく揺れて、強風の中「ド
ーン」と音を立てて無事に着陸。池田君を除いて空港で13名集合。1泊目の
出雲ロイヤルホテルへ。

12月4日 萩から秋吉台へ。
地下に広がる巨大な秋芳洞に
入る。石灰柱や、垂れ下がる
鐘乳石など、何万年もの歳月
をかけた景観に自然の力を感
じた。



錦帯橋で記念撮影

その後、門司まで足を伸ばす。海峡と関門橋とを一望できる火の山公園
展望台からの眺めは雄大で、海と大小の船舶の対比が素晴らしい。

12月5日 広島から尾道しまなみ海道へ。与島では下からの瀬戸大橋を
眺めた。食費でツアー最後の宿泊。

最後も飲み放題の大宴会。高校の話で盛り上がり、人生を語り、大爆笑
の渦。あびるように飲む日本酒、ハイボール等々。観光も良いが、この大
宴会がうれしい、楽しい。

毎年でも行きたくなる「十八の会」の旅である。

(3年4組 大矢 貢)

15期生『修学旅行に参加して』

卒業してから50年という節目に初めて同期会修学旅行に参加。懐かしい顔、顔、首から名札をぶら
下げてバスに乗り、好天に恵まれ目的地阿寒へと出発。途中女満別空港、美幌峠で降車、峠から屈斜路湖
を望む。透明度日本一の摩周湖へ、何度見ても神秘的で美しい。

ホテルでの宴会は50年振りの再会もあり、それぞれ話が弾んでいる。

第三応援歌を歌うと、炎天下、運動公園へ野球の応援に行っただけのことが甦る。

2日目はホテルから北見へ直行、市内が一望できる北見が丘へ、次に青春の思い出のつまる野付牛公園へ、
昔と変わらぬ佇まいであった。



野付牛公園にて

時間を過ごすことができました。

戦後生まれの私達、それなりに社会に貢献してきました。振り返れば良き時代を過ごすことができましたと思
います。終活とやらに感わず1日1日を有意義に楽しく笑って過ごせたら幸せですね。健康で長生きす
るためには脳トレや適度の運動も大事とのこと、頑張りましょう。
(坂岡邦子)

母校では柏陽卒業生という校長先生に校内を案内して頂く、廊下
の壁には生徒の作品がにぎやかに展示されていた。新しい大きな体
育館では、創作ダンスの授業が行われていた。

あの頃はフォークダンスでした。

オホーツクビールで美味しい塩焼きそばの昼食に地ビールをいた
き解散。

二日間、遠い学生時代にタイムスリップしたかのような楽しい時